

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100259		
法人名	有限会社楽らく		
事業所名	グループホーム楽らく		
所在地	三重県南牟婁郡紀宝町成川1076-5		
自己評価作成日	平成 31 年 1 月 22 日	評価結果市町提出日	平成31年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_2018_022_kihon=true&JigvosvoCd=2473100259-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 2 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心・・・楽しく、気楽に」を基本理念とし、入居者様と共に職員も楽しく過ごせるような事業所を目指しています。
また、看取り介護の実績もあり、希望される入居者様には最期の時まで楽らくで過ごしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世界遺産、熊野速玉大社の近くに位置する三重県最南端のグループホーム楽らくは、四季の移ろいを感じる緑ゆたかな恵まれた環境に立地している。事業所の広い敷地内には、桜・梅等の花木や果樹園があり、畑には利用者が一年中、新鮮野菜が採れるように工夫されている。隣接デイサービスでの談笑や小学校行事への参加、地域住民との交流(筍掘りなど)、外気浴で気分転換を図るなど、利用者がいつも楽しく和やかで、穏やかな時を楽しむ事が出来るよう管理者・職員で色々な工夫や努力をしている事業所である。又、資格試験援助も事業所より積極的に行われており、有資格者が多く、利用者のニーズに合った支援が出来るかを管理者・職員間のチームワークの良さで考え実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心…楽しく、気…楽に」を基本理念とし、入居者の皆さんと職員が共に楽しみ、地域に密着したグループホーム作りに取り組んでいる。また、管理者が率先して理念を実践し、全職員が理念を把握できている。	理念の大切さは職員の入社時や職員会議などで伝えている。管理者・職員は理念を常に意識しながら利用者の意向を尊重し、能力に応じた自立生活が送れるような支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃奉仕活動や氏神様のお祭りに参加したり、近所の小学校の行事や市町主催の行事に職員も参加している。地域住民が立ち寄られることもある。	毎週、利用者と共に清掃に参加したり、近くの小学校での行事(運動会など)に招待され見学に行くなど、日頃から地域とは交流している。昨年は民生委員の見学もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医師会や地域包括支援センターからの依頼で、管理者が地域の講演会などに出席し認知症や施設サービスなどを講演し説明している。また、地域の認知症ボランティア団体の見学を受け入れ、認知症介護の啓発活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の内外活動の支援をお願いし、会議の内容に基づき今年度については町から福祉避難所として指定された。また町内会の主催する防災への取り組みにも参加している。	年6回開催し、地域包括支援センター・町内会長・利用者家族の参加で情報交換が行われている。参加メンバーが少数で意見が運営に活かされきれてない時もあり課題となっている。	運営推進会議のメンバーに幅広い層の参加を求め、より一層の貴重な意見交換の場となるように望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各市町の地域包括センター主催の研修会への参加や介護保険の更新手続きなどで役場に出向き制度面等の改正についてなど指導して頂き、サービスの改善や向上に役立てている。	市や包括支援センター主催の研修会には出来るだけ参加し情報交換すると共に、運営推進会議に参加してもらった時に相談・助言を得る等、協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開放的な空間が常にあり、職員も研修で身体拘束について理解している。日常的に意見交換して、身体拘束防止を全職員で取り組んでいる。個々の介助場面でも職員同士が声を掛け合って確認している。	年間研修計画や毎月のカンファレンスなどで何が拘束にあたるのか管理者・職員間で話し合っている。常に拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者ひとりひとりの状態について、職員の意見交換の場を持ち、虐待を見逃ごすことのないように努めている。グループウェアの活用で、管理者よりその都度情報発信をして意識を高めている。今年度は、地域包括支援センターより講師を招いて虐待研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の一人が成年後見制度を利用されていて、成年後見人への連絡や対応等を通じ制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用契約書や重要事項説明書内容を家族や代理人に説明し理解と共に契約している。改定の際は文章、説明にて了解(サイン)を頂き、同意と了解を共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族の面会時に面談の時間を作り、意見や苦情などを聞いている。家族会などの行事の際にも、アンケートを実施している。	家族代表に運営推進会議に参加してもらっている。今年は家族会の行事の際にアンケートを実施し、多くの意見・要望を聞く機会を得、それらを運営に反映させている。又、年4回「楽しくお便り」を発行し利用者の近況報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で職員と管理者と必ず意見交換できる機会がある。管理者は常に話を聞く状態にあり、意見や提案をする機会が多い。	年2回、人事評価で統括(代表)や管理者と個人面談がある。常日頃から管理者は職員と意見交換が出来るようになっており、提案された意見などは職員会議で検討し事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する取り組みに対し、内外研修会の時間外手当の支給や資格試験の援助を積極的に行っている。職員は個別に目標設定しており、各自の状況を把握している。それに伴い、やりがいを持ち向上心を持って働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、サービス事業管理者研修、リーダー研修などの研修会や講習会に積極的に参加を勧め、受講手当なども支給している。内外の研修を掲示して研修を受ける機会をつくるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(社)三重県地域密着型サービス協議会の会員になり、各研修会に参加し意見交換や事例提供をして交流を図っている。また、紀南介護事業者連絡会にも参加をして、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしていく中で、本人の不安等を把握して、関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の施設訪問時や手紙などで連絡は密にしている。施設利用の要望についても意見交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の日常生活を伺い、支援や対応を選択できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護されている」気持ちにならないように、対応、接し方を注意している。 普段の暮らしや日常を保てる環境を、物や対応で作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との関わりを維持できるよう、面会時などでその機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会がいつでもできる開放的な空間や外出、外泊などで関係を継続している。	隣接デイサービス利用者の知人・友人に出かけたり、家族の協力で受診後、馴染みの店に行くこともある。携帯電話の使用や知人が気楽に訪ねて来てくれるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を共に摂る時や、畳部屋で洗濯物のたたみ作業を一緒にしてもらう際などに、職員が間を取り持ち、入居者同士の関係がうまくゆくように、さりげなく配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設へ転所された方にも、お見舞いや面会で様子を見に出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で話をしたり、入居者同士の話の中からも様子を観察して支援をしている。また、職員間でもカンファレンスや申し送り等で把握や実施に努めている。	入浴時や居室で職員と1対1になる時は利用者の思いが言い表しやすい為、会話などから把握に努め、全員で共有している。把握が困難な場合は職員間で話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人との面談や家族からも情報を聞き取り、日頃の会話の中での情報を基にサービスに反映している。また、入居後も家族の面会の際に、かつての好みや生活など世間話の中で、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの好みや行動のパターンを把握し、中庭の散歩や水やりなど、できることを日頃から模索している。入居者の言動や表情でも気づくことがあり、変化を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングする機会を職員に設けており、内容を介護計画に反映させている。	本人・家族の意見を基にカンファレンスで担当職員と話し合いながら検討し、介護計画を作成している。毎月のモニタリングで必要に応じ、評価・見直しを行い、現状に即した介護計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を作成し記録している。台帳の閲覧場所を決め、必要な情報を介護職員が共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の家族の面会、外出や宿泊希望についても柔軟に対応している。受診においても、可能な限り柔軟に対応している。また、誕生会でも多人数の家族の受け入れも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの理髪店に散髪に行ったり、ドライブの際に地域のお店に買い物に入ったりする。顔見知りの方がいるお店を選んで訪れるようにする。認知症カフェにも行き、地域住民との交流もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医のある方は引き続き受診支援を行なっている。又、医療機関ともなじみの関係を築き、医療、歯科の往診も利用していただいている。施設側も医療機関とは常に連絡を取れる体制がある。	入居前からのかかりつけ医が数名いて、受診支援も引き続き行われている。緊急時は協力医に訪問診療してもらう体制を取っており、利用者や家族の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をとり日常の健康チェック、連絡ノートを活用し相談するなど健康管理を行っている。オンコールで常に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関や主治医と入居者の健康などについて常に情報交換を行っている。入院中は、家族とともに退院後の生活について地域連携室との情報交換も行っている。入退院時も、心身状態や対応や薬について情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や主治医との連携をとりながら、入居者が終末期を迎える際にどのような対応が可能かなど、方針と方法を共有している。また、看取りにむけて家族の意向を記した同意書も交わしている。	今年も3名の看取りをした。看護師の職員が退職したが、殆どの家族が看取りに対して要望があり、近くの訪問看護事業所と連携し、主治医の指示の下、出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医師との連携があり、夜間でも連絡できる体制がある。また、地域病院の開催する救急勉強会にも参加していて、応急救護などは社内研修でも実施をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災などいろいろな状況を想定した消火避難訓練を年2回行い、消防署員にも立ち会いをお願いしている。避難経路や避難場所の確認も同時に行っている。	年2回、消防署立ち合いの上、地域住民の協力もあり消火・避難訓練をした。事業所の2階ユニットが隣接デイサービス事業所の1階廊下で繋がっていて、避難経路や全職員が落ち着いて行動できる体制を再確認した。防災用具と非常食は各階ごとに備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー尊重の観点から、各居室への出入りは一言掛けて行い、人前であからさまに介護、介助をしないように心がけている。また、可能な限り同性介助やその人に合わせた対応をとっている。	職員には入社の際に個人情報やプライバシー保護の研修を行っている。入浴時の同性介助や利用者の呼び名など、その人に合わせた対応を自然に行うように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話などで、食事の希望や外出の要望を選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄や入浴、散歩など本人のペースを維持できるよう努めている。 洗濯物量みなどの家事も、その日の状態にあわせて強要せずに支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自分で選んでもらうなど身だしなみやおしゃれを積極的に支持し、なじみの美容室のある方には、外出してもらったりしている。希望を募り、美容師さんにホームに来てカットしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けなどが得意な入居者には力を発揮してもらっている。 「本日のメニュー」を入居者様自身にボードに記入してもらっている。	週3回、隣接デイサービスより調理済食材が届き、その他は職員の手作りである。利用者と食材の買い出しや畑で採れた新鮮野菜が加わり楽しい食事時間となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は、入居者に応じた量を提供している。また、タイミングをみて水分をこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけの仕方を工夫し、一人一人に合わせて口腔ケアを実施している。 ケアの方法は、本人に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	要望にあわせて尿取りパッド等を変更し、処方された便秘薬を本人と相談し対応している。自己表現が困難な方は、排泄表を介護職員が確認し、排尿排便間隔や量などの情報を把握し、トイレでの排泄を支援している。朝夕の申し送りでも排泄状態について細かく確認している。	個々の排泄パターンを把握し対応している為、布パンツ利用者が多い。利用者のそれぞれ様子を見逃さず、目配り気配りに配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活の中での運動を促している。運動が困難な入居者については、乳製品をなど摂取するなど飲食でも調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	相手の意見をくみ取ってから声かけや対応を工夫し、入居者のタイミングに合わせている。	一人ずつお湯を入れ替えて週2回、午前中入浴を基本としているが、個々の希望や健康状態にも配慮した支援をしている。又、利用者の好みのシャンプーで入浴を楽しんでもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの入居者に合わせた就寝時間としている。また、音などで起きないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を説明したり、病状の変化を共有している。また薬には名前、日付けなどのタグを付けて誤薬を避ける工夫を行う。病院や薬局で頂いた、薬の説明書を個人ファイルに整理し職員が何時でも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カルタなどで昔を思い出す会話を引き出した、編み物で入居者の趣味を継続している。お酒を飲みたいという希望に納得できるよう、容器を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祭りや近くの小学校の行事などで、地域の方々に協力していただいたり情報などもいただいている。日常会話から、外出の希望に対応できるようにして、外出の機会を増やしている。	事業所の広い庭には畑があり、四季にわたり木の実や根菜類を収穫するのが利用者の楽しみである。天気の良い日は出来る限り外に出て気分転換を図っている。又、食材やおやつ、の買い物に利用者同行で出かけるなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や訪問販売等でお金を所持し使用している。 自発的に財布を所持し、中身を確認したり家族のためにお金を使おうとする入居者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望まれるタイミングで、電話をかけることができるよう支援を行っている。本人宛の手紙なども、届くと喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けやテレビの音が大きすぎないように配慮している。昼夜がわかるようにカーテンなどで調整している。飾りだけでなく、生け花や収穫した野菜で季節を味わっていただいている。	間口の広い玄関にある椅子、居間にある畳の間、洗面所の水洗レバーなど利用者にやさしく、のんびりと寛げる場所となるよう工夫している。1階・2階の窓からは四季折々に変化する景色が良く見えて心癒される空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人に合わせた自分の時間を作っている。フロア部分や部屋で好きなように過ごしてもらっている。畳の場所を活用する方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、なるべく使い慣れた家具などを持ち込み、居心地が良い部屋作りに配慮している。	居室入口ドアは模様が全室、違っており、自分の家(部屋)がわかるように工夫されている。室内は利用者好みの和室・洋室にレイアウトされ、使い慣れた家具などが持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が行動しやすいように、過剰な介助をしないように工夫している。 安全には付き添いや見守りを行い、センサーコールを活用して対応している。		